

コロナ禍での「やりがい搾取」 私たちは奉仕ではなく、生きるために働いている！
賃金に反映させるために、一人ひとりが声をあげよう！

私たちは、新型コロナウイルスへの感染リスクがある中、社会と生活に欠かせない“エッセンシャルワーカー”として、公共交通機関の社会的使命と責務を果たすために、鉄道の安全・安定輸送に努めてきました。

それにも関わらず、会社が社員の使命感や意欲を利用して賃金に反映しないことは、まさに「やりがい搾取」の典型です。

「やりがい搾取」とは

雇う側が「やりがい」を強く意識させることで、働き手が低賃金や長時間労働といった環境に順応してしまうこと。



会社は「下期の黒字を目標」として、社員に対して期待や成長、チャレンジについて述べました。しかし、これまで業務量が変わらない中で従事してきた現場の努力に応え、今後のモチベーションを上げるためには『人への投資』として還元するべきです！

会社は、これまでの現場の努力とエッセンシャルワーカーとしての社会的な価値を適切に評価し、年末手当を「満額回答」で応えるべきだ！